

子どもは交代で



震災体験者からのメッセージ

人と出会って始まるコトがある！

岩手から元気をもらおう！

福島、宮城に学ぼう！

交流イベント

ひとつ

家族で参加

映画誘って人を恋



九月十三日(土)開催

あなたと共有したい考え方(価値観)

地震列島、日本。

いつ、どこにしようが、災害に襲われる危険性がある。

だから、震災の「記憶の風化」なんてありえない。

この傷ついた日本のゆくえを、固唾を呑んで見守っていきたい。

共に手を携えて災害に立ち向かってゆくため、

子孫に残せる未来を切り拓くため、

今こそ、みんなの心を「ひとつ」にしよう。

この「想い」を、あなたと共に・・・。

開催日：2014年9月13日(土)

会場：まつもと市民芸術館(主ホール)

入場料：1,000円(前売券800円)、学生・身障者：無料

主催：交流イベント「ひとつ」実行委員会

お申込み・問合せ 080-2346-7601(今井)

WEB申込み <http://7colors.org/hitotsu/>

[後援] 松本市、松本市教育委員会

朝日新聞松本支局、松本平タウン情報

中日新聞社、市民タイムス、大系タイムス社

お知らせ

○復興応援活動に携わっている方、当イベント会場をご活動のPRに、イベント来場者との交流や、他のグループの皆さまとの情報交換の場として、是非、ご活用ください。

以下の項目についてご確認の上、電話またはメール(hitotsu@7colors.org)、ホームページからお申込みください。(お申込み期限:8月10日)

1.お名前、2.ご連絡先、3.参加形態(出展・物品販売)、4.出展・物品数

※出展による手数料や、物販による利益は一切、頂きません。

詳しく知りたい方は、下記のURLにアクセスして下さい。

<http://7colors.org/hitotsu/>



第1ステージ

開場 13:00 / 開演 13:20(次ステージまでの休憩20分)

朗読

書籍「女性たちの被災体験談」より

言葉に想いが宿るとは一体、どういうことなのか？

朗読のプロが伝える渾身の被災体験談

読み手：ろうどく・陪音(ばいおん)

萩原 みどり

元テレビ山梨アナウンサー。フリーとなり「おはよう毎日健康」「三歳児」などの番組担当。役者として「ザ・世界仰天ニュース」「行列の出来る法律相談所」等、再現ドラマに多数出演。

小脇 貞子

日本コトバの会主催「朗読コンクール全国大会」3回入賞。表現朗読を始めて20年。陪音のほか、ボランティア活動として施設など各所にて出前朗読を行っている。

山縣 民子

表現としてパントマイムを習得。視覚障害者の為の朗読ボランティア活動を20年続行。施設を訪問して出前朗読も行っている。

講演

福島の今とこれから(予定)

避難所運営から得た教訓とは？

わたしたちは、これからどう生きるべきなのだろうか？

困難を克服していった先駆者の知恵

講師：澤井 史郎

(現 福島県いわき市立勿来第二中学校 学校長)

震災当時、いわき市立湯本第二中学校の学校長として、避難所となった同学校の陣頭指揮を執る。「心は一つ」をモットーに、避難中の方自身で運営ができるよう、老若男女を問わず、たとえ幼児であっても必ず役割を設けた。その体験談は、書籍「女性たちの被災体験談」にも綴られている。現在は、子どもたちと街づくりについて考えながら、復興活動に取り組む。

第2ステージ

開演 15:00 / 終演 16:20

映画上映&トークショー

映画 3.11 メモリアルフィルム「ひとつ」

岩手県で生まれた、映画「ひとつ」

なぜ、彼らはこんなにも元気なのか？ その理由は、

製作スタッフらのトークショーでわかる！

<あらすじ>

東日本大震災後、宮古出身の青年ツヨシは、盛岡市復興支援学生寮しゅあハート村に入居していた。震災月命日に行われている「11日の灯り」で音楽好きの青年ジュンと出会う。音楽という共通の趣味から仲良くなった二人。しかし、ツヨシは震災の傷から心を開いてジュンと打ち解けることができなかった。そんなとき、しゅあハート村のおせわ係・木津川の助言で二人は旅に出る。岩手の豊かな自然の中、様々な人たちと触れ合いながら心の葛藤を受け止め、二人が心を「ひとつ」にして曲を生み出す姿を綴ったロードムービー。

←ツヨシ役：菅野 創一朗(左)、ジュン役：Risato Nei(右)



製作スタッフトークショー

加藤 勝 (映画「ひとつ」プロデューサー)



岩手県盛岡市、危機管理課の職員。自由闊達な発想から盛岡市の復興を強力に推し進めている。内外に向けて震災経験地としての情報を積極的に発信。震災の記憶が薄れ始めていることについて、「僕らの経験を他地域の『事前復興』に活かしてもらうこと、その視点が無い『記憶の風化論』は、独りよがりなものだ」と発言している。

高橋 政彦 (映画「ひとつ」監督)



2009年、社会人自主映画サークル「オトナ映画部」を旗揚げ。監督をした第一回作品「黄色いライスカレー」が「もりおか映画祭2010」オプシアターコンペティションで審査委員特別賞を受賞。映画作りをテーマにした復興応援活動として、3.11 メモリアルフィルム「ひとつ」を製作した。昭和39年9月13日、宮古市生まれ。

第1ステージ 【朗読・講演】

開場 13:00
開演 13:20

朗読 【出演】ろうどく・陪音

出演者から皆さまへ

あの日から3年が過ぎても、復興にはまだまだ沢山の時間が必要です。解決し難い問題も多々あります。私たちは何の手助けもできずにいたところ、震災体験者の手記を朗読させて頂く機会を得ました。この事実を永遠に風化させない為に、心から語らせて頂きます。言葉に想いをのせて！

(代表:萩原 みどり)

※ろうどく・陪音は、川崎市麻生区にて活動を展開する朗読グループ。作品選びから構成、脚色、演出すべてを自分たちで行う。今年9月27日、川崎市の京浜楽器にて第9回目の朗読ライブを行う予定(詳しくは「ひとつ」HPに掲載)。

講演 【出演】澤井 史郎 (福島県いわき市勿来第二中学校・学校長)

出演者から皆さまへ

東日本大震災が起こった際には当時、私が勤務した学校も74日間にわたり避難所になりました。不便な避難所生活をしている被災者を支えたのは、全国の皆さんの心温まる支援でした。長野県の皆さんにも本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

震災から4年目を迎えました。その連鎖反応はいまだに続いています。震災後の問題点は何か。そして明らかな問題点を解決するために私たちはどのように行動すべきなのか。それらについて避難所運営や被災地での復興の様子をお知らせすると共に、新しい市民運動などもご紹介しながら皆さんと共に考える機会にしたいと思います。

♪賛同お助け演奏

中村ギター音楽院 代表 中村 健二

曲目 「花は咲く」「夜明けのうた」



第2ステージ 【映画・トークショー】

開演 15:00
終演 16:20

映画「ひとつ」上映 トークショー

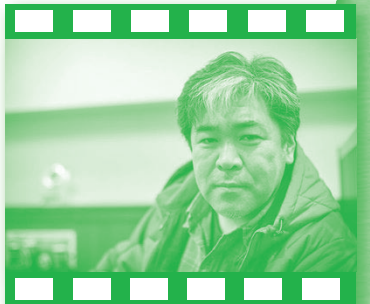
出演者から皆さまへ

2011年までに私たちは、オトナの部活動として4つの映画作品を作ってきました。映画づくりはあくまで自分たちの喜びであり趣味でした。4つめの作品を作るべく準備している時、あの東日本大震災が起こりました。当然、しばらく映画づくりはストップせざるを得なくなりました。しかし、やがて「立ち上がれる人から動き出すべき」という声生まれ、私たちは映画づくりを再開することにしました。こうして完成したのがオトナ映画部の第4作「義経北行」でした。しかし、そこで一区切りのつもりでいたのも事実です。

そんな中、2012年の夏に、盛岡市から「復興応援としての映画を作らないか」という話をいただきました。2013年の3月11日、大震災から丸2年目のメモリアル行事での上映が目的です。それまでは飽くまで自分たちのために映画づくりを楽しんできましたが、これで自分たちの映画が復興応援に関われるのだ、と思いました。その瞬間、自分たちなりの役立ち方があることを知りました。それが「3.11メモリアルフィルム ひとつ」なのです。

2012年の秋から冬にかけてのオール岩手ロケ、音楽までオールオリジナル作品です。きっかけや主旨は震災復興応援ですが、オトナ映画部らしく、楽しんで作ることは忘れなかったつもりです。自分たちがそうだったように、立ち上がれる人から立ち上がり、自分なりにできることを見つけ、自分なりのスピードで歩き始めよう……。そんな物語です。何かを考える最初の一歩(ひとしずく)になれば嬉しく思います。

高橋 政彦(映画「ひとつ」監督)



【写真展】

主ホール入口
ホワイエにて

「私たちは忘れない、3.11～ 放射能に汚染された街はいまも眠っている」

宮城 寛明(写真家)

2011.3.11という大きな贖罪を背負った私たち。
いっこうに無くならない放射能汚染。
むしろ目に見えなくなってきた聞こえなくなってきた。
見ないのか見えないのか、
聞かないのか聞こえないのか、
言わないのか言えないのか、
それでも心の中で叫びたい人がたくさんいるはずだ。
私たちの世代だけでは片付けることができない。
永い戦いになることはわかっているだろう。
エネルギー政策の不合理的な決定は大きな恥を抱えてしまった。
私たちの責任かもしれない。
今、この国にはやらなければならないことがたくさんある。
その一つがエネルギー問題だ。
原発再稼働、新設もありうるということのことに、
もう一度考えてみるのが大事なときにきている。
反対でも賛成でもそれに対する思いは人様々であってもいいが、
声に出して言葉でつなげてみよう。
福島を教訓にして皆で考えよう。

主催者からのご挨拶

当イベントの開催目的は、チラシの表に掲げた考え方(価値観)を多くの人々と共有することです。イベントでは、私たちが語り継いでいくべき震災体験や教訓、生き方のヒントなどが学べることでしょう。震災体験者から受け取ったメッセージを自分のことのように捉え、未来に活かしていこうとする視点を持つことで、「記憶の風化」を防止する一助になれば幸いです。皆さまの交流イベント「ひとつ」への参加を、心よりお待ちしております。

今井 康裕
(交流イベント「ひとつ」実行委員会・発起人)

松本市

- ◆まつもと市民芸術館チケットセンター
(窓口 10:00~18:00)
- ◆中村ギター音楽院
TEL.0263-35-2365
- ◆土屋行政書士事務所
TEL.0263-76-1111
- ◆パティスリー ミルティーユ
TEL.0263-78-6066
〔定休日〕月曜日、第1・3火曜日

松川村

- ◆スペイン料理店 パンプローナ
TEL.0261-62-2286
〔定休日〕火曜日、第3・4水曜日
- ◆和洋菓子店 ドール中島
TEL.0261-62-8682
- ◆手打そば みはらし
TEL.0261-62-8993

大町市

- ◆塩原書店デリシア大町駅前店
TEL.0261-23-5885

白馬村

- ◆白馬 ホテル オークフォレスト
TEL.0261-85-2135

安曇野市

- ◆寺嶋わさび追分店
TEL.0263-82-5500
〔定休日〕火曜日
- ◆zakka+handmade うさぎ小屋
TEL.0263-82-8265
〔定休日〕水曜日

池田町

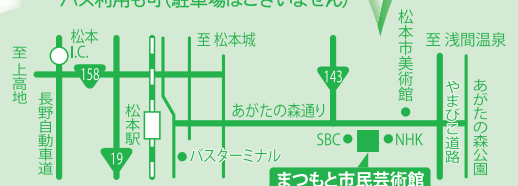
- ◆売店 カモミール(ハーブセンター南隣)
TEL.0261-85-7663
〔定休日〕木曜日
- ◆お食事処 しもさと
TEL.0261-62-2546
〔定休日〕月曜日、第2火曜日

ご注意

お近くに取扱店が無い場合は、下記のメールまたは電話、「ひとつ」HP(ホームページ)からチケットをお求め下さい。
尚、当イベントのチケットは、イベント終了後にサービス券にもなります。

会場案内

- 会場へは松本駅から徒歩10分、バス利用可(駐車場はございません)



お問い合わせ/お申込み

メール: hitotsu@7colors.org
電話: 080-2346-7601(今井)
「ひとつ」HP: http://7colors.org/hitotsu/